

家康ゆかりの 磐田をめぐる



〔浜松城で太鼓を打ち鳴らす酒井忠次〕 三方原浮世絵（個人蔵）

今、大河ドラマで話題の徳川家康。

いまからおよそ420年前、戦国の混乱を勝ちぬき、
平和な時代をもたらした人物として有名です。

皆さんは、この日本で最も知られた戦国武将が、
磐田市と大きな関わりがあることをご存じでしょうか。
市内に残る家康の足跡をたどる旅に出かけてみましょう。

家康の戦

磐田市には徳川家康の合戦のエピソードが数多くあります。その中でも「一言坂の戦い」は三方ヶ原の戦いの前哨戦として語られています。

若き家康、磐田に住まう

三河国（現在の愛知県東部）の松平家の当主として生まれた徳川家康は、幼少期から人質として駿府（静岡市）で育ち、多くの「どうする？」を経て永禄12年（1569）、満26歳にして三河・遠江の2カ国を治める大名に成長します。

このとき、家康はまず見付に入り、ここを住まいとしました。江戸時代初期の『三河物語』にも「見付之国府を御住所に成され…」とあり、遠江を治めるにあたって、古代から遠州地方の中心地であった見付に住むことが大事であったことが分かります。

迫りくる武田軍

しかし、3年後の元亀3年（1572）10月、領土の拡張をねらう武田信玄の侵攻によって、磐田市内も戦場となります。

約2万5千の兵力で遠江に攻め込んできた武田軍に対して、家康は約3千の兵を連れて大日堂（三ヶ野台）に至り、武田軍の情勢を確かめようとした。しかし、すでに約2kmの地点にある木原（袋井市）まで進軍していた武田軍に見つかってしまいます。

一言坂の戦い

武田軍は軍勢を二手に分け、挟み撃ちにしようとして迫ってきます。兵力にも差があり、このまま戦うのは不利と見た家康は退却することを決め、見付から池田近道（姫街道）を通過して一言坂までたどり着き





本多平八郎忠勝一言坂の戦い奮戦の図（林大功画）

ますが、そこで武田軍に追い付かれてしまいました。

当時の一言坂は道の両側が高くなくなった堀の底のような道で、幅も狭く、急な坂道だったようです。一度にたくさん兵隊が通れないことから戦うのに有利だと考え、ここで敵を食い止め、その間に家康を遠くに逃がす、という作戦をとることにしたのだと推定されます。



現在の一言坂

立ちはだかる 本多忠勝

ここで軍の一番後ろについて戦ったのが大久保忠佐、内藤信成などの家臣です。その中でも本多（平八郎）忠勝は大いに奮戦し、敵方の武田軍も「家康に過ぎたるものが二つあり 唐の頭に本多平八」という落書を立てて彼の武勇を褒めたたえました。家臣の命がけの働きのおかげで家康は無事に天竜川を渡り、浜松城に帰ることができました。家康は「その武功を感嘆」し、「吾が家の良将と謂うべし」と最大級の賛辞で忠勝を褒めたといわれています。

磐田市での損害を最小限に抑えた家康でしたが、12月、三方ヶ原の戦いで武田軍に完敗し、その前途は風前の灯となりました。しかし翌年4月に信玄が病気のため亡くなり、戦況は再び家康に有利になっていきました。

※唐の頭…「ヤク」（中国などに生息する牛の仲間）の毛で作ったかぶと。
高級品。

家康の城

家康は生涯にわたり、多くの城を築きました。磐田市にも家康が築いた城の跡が残されています。その中でも、とりわけ家康とゆかりのある三つの城を紹介します。

幻の城 城之崎城

遠江を治めることになった徳川家康。最初にその本拠地としたのが見付の地でした。当時、見付には今の県庁にあたる国府が置かれ、政治・経済の中心地であったと同時に、住む人たちも多かったことから、ここを本拠地にすることにしたのでと推定されま

この場所にはもともと見付城（遠府城）があったようですが、家康は、南側の小高い丘陵の上に新しい城（城之崎城）を造る計画をたてました。

城之崎城の工事は永禄12年（1569）の秋から進められ、翌年の6月にはほぼ完成し、家臣たちの屋敷の場所も決まっていたようですが、家康は突然ここを放棄し、浜松に移りました。

浜松に移った理由は、織田信長の助言があったからで



城之崎城跡（城山球場）

が、その詳しい理由はわかっていません。その後浜松を本拠にしたことから、磐田を背にした「背水の陣」となってしまう、本拠地である岡崎や同盟者である織田信長からの援軍が遅くなることなどが考えられています。



城跡のうち本曲輪（本丸）は現在、城山球場となっており、土塁などに当時の面影を見ることができません。



球場を囲む土塁（防御のために築いた盛土）。内側は観客席となっている

徳川・武田抗争の舞台

社山城

社山城は南北朝時代に築城されたとする文書があり、その後、遠江守護となった今川氏の支配下に置かれたようですが、今川氏が滅亡し、徳川家康が遠江を支配するようになると、北遠の軍事拠点である二俣城（浜松市天竜区）をめぐる、武田氏との抗争の舞台になりました。

社山城は二俣と見付の中間地点にあり、独立した丘陵であることから見晴らしも良いなど、城を築くのに条件の良い場所であったのでしよう。武田信玄が遠江に侵攻した際、合代島に陣を張ったと記録されていますが、このとき社山城も陣の一部として使われたと思われます。武田信玄が病死したあとは、徳川家康に



社山城跡



ほんくるわ
本曲輪と考えられる広場

よって修理されたと記録にあります。天正3年（1575）、長篠の戦いで武田軍が大敗し、二俣城も家康の手に落ちると、社山城も役割を終えたと考えられます。

社山城は「山城」と呼ばれ、南北に長い本曲輪と考えられる広場に八幡神社が建ち、東側に二の曲輪があります。城跡からは遠く天竜川や浜北方面を見渡すことができ、現在も土塁や堀などが良好な状態で残っており、一部は市指定史跡となっています。

軍議・鷹狩りの拠点

中泉御殿

中泉御殿は、天正6年（1578）、小さな砦を造ったことがはじめであるといわれています。もとは地域の有力者で府八幡宮の神官であった秋鹿氏の屋敷でしたが、家康に献上したと伝わります。その後、家臣の伊奈忠次に命じて御殿の建築を行い、天正15年（1587）ごろに完成しました。

朝鮮出兵、関ヶ原の戦い、大坂冬の陣・夏の陣と多くの戦時に立ち寄り、作戦会議の場としても使われましたが、最も使われたのは家康が愛した「鷹狩り」の場としてでした。ここに宿泊して、大池周辺にいる鶴や鴨などの水鳥を狩り、家臣と獲物を調理して味わうのを喜びと考



西光寺表門（中泉御殿表門）



西願寺門（中泉御殿裏門）

えられます。なお、鷹狩りは単なる遊びではなく、心身を鍛えることやその土地の状況を視察することも目的としていたようです。家康は御殿の周辺に商人たちを呼び寄せ、税金面で優遇するなどして中泉の発展の基礎を作りました。

御殿は寛文10年（1670）に廃止となり、西光寺（見付）に表門が、西願寺（中泉）に裏門がそれぞれ移築されて残っています（市指定文化財）。跡地の一部は「御殿遺跡公園」として立ち寄ることができます。

家康の なごり

伝酒井の太鼓



三方ヶ原の戦いで武田信玄に敗れた家康は、浜松城に逃げ帰ります。追ってきた武田軍に対して、家臣の酒井忠次が浜松城内の太鼓を打ち鳴らしました。何か策があると見た武田軍は追撃をあきらめ、家康は窮地を救われたと伝えられています。

家康を救った伝酒井の太鼓は明治7年に見付の町民が買い、その後旧見付学校に寄贈されました。現在は市の指定文化財になっています。(位置図①)





宣光寺の釣鐘



宣光寺（見付）に家康が寄進した釣鐘があります。

口径51.5cm、高さが74cmある釣鐘の胴の部分には「源（みなもとの）家康」の銘文があります。これは天正15年（1587）、長篠の戦いや本能寺の変などを経て、戦死した多くの武将のために家康が宣光寺地蔵菩薩にその冥福を祈るとともに寄進されたもので、市の指定文化財になっています。(位置図②)

市内に残る伝承地

-  家康を助けた言い伝え
-  家康が逃げた言い伝え

源
家
康

家康公お手植えの蘇鉄



中泉に^{おがきでら みひろぼう}小笠寺三仞坊という寺院があり、家康の信仰が厚く、その祈願所を務めていました。天正6年(1578)ごろ、三仞坊の地に中泉御殿を造ることになり、家康の命により寺院は磐田駅付近に移転しました。この時に家康が寺院の境内に蘇鉄を寄進したと伝えられています。

その後、昭和17年に三仞坊が大乗院と合併することになった時、現在の磐田市役所の敷地内に蘇鉄が寄贈されました。蘇鉄は樹齢400年といわれています。(位置図③)

家康が遠江国を手に入れた時、家臣の中で土木技術に優れていた伊奈忠次に天竜川の治水と流域の水田経営を命じました。

忠次は地域に詳しい^{ひらのしげさだ}平野重定に相談し、2人は水田の用水路を整備することが大切だと考え、天竜川からの用水の取入口を寺谷村(現在の寺谷)に設けることを決め、天正18年(1588)から工事に取り掛かりました。

寺谷用水は天竜川の治水と利水を一体的に行う革新的なかんがい技術導入の先駆けとして、現在も「命の水」を届けており、令和4年10月6日に世界かんがい施設遺産に登録されました。(位置図④) 寺谷用水土地改良区)



寺谷用水

家康が磐田に残したさまざまなものに触れ、家康の息吹を感じてみましょう。

磐田には数多くの「家康伝説」があります。その多くが「家康が逃げた」「家康を助けた」といったもので、当時の人々のイメージは江戸幕府の初代将軍でも大御所さまでもなく、少し頼りない若き武将であり、身近な存在として感じていたことがわかります。

残してきたものは
これからも続く



磐田で過ごした若き家康の足跡を動画で紹介します。右記二次元コードからご覧ください。



- ・文化財を見学するときは、マナーを守って見学しましょう。
- ・紹介した文化財の中には、常時見学できないものもあります。
- ・徳川家康にまつわる歴史や伝説については諸説あります。